

『都市化の影響を免れた』国分寺崖線の自然に驚嘆して ～ NTT 研修センター観察会 ～

4月28日(土)環境市民懇談会運営委員会主催の観察会を行いました。はじめに、講師の根本さんから「都市にあって都市化の影響を免れた森」についてとスズメバチへの注意がされ、「調布・野の花 100 春編」を提供して下さった横山さんからは花図鑑の使い方の説明がありました。23名(内職員4名)の参加者の中には、研修地内にはじめて入った人も多くいました。



研修所内の宿泊棟の周囲は、グラウンド・スポーツ施設以外数年使用されていないこともあり以前ほど手入れがされていないため西側崖線では落ち葉が20センチほど溜まっていた。人が殆ど立ち入らないため林床が破壊されておらず、崖線にはキンランがあちこちで咲き乱れていました。その光景に参加者もはじめは感激し、踏みつけないように互いに注意しながら夢中であちこちで写真をとっていましたが、そこそこに多々見られると、ようやく他の植物に目がいくようになりました。カントウタンポポ・ササバギンラン・ギンラン・シュンラン・ヒトリシズカ・ニリンソウが咲き、ヤマユリ・ナルコユリも観察できました。特にヤマユリは一葉が出てから、3～10年かけて花が咲くという説明をきき、貴重植物のゆえんと保全の必要性を感じました。

遊歩道ではカキドオシの群生、イチヤクソウなどが観察されました。参加者の殆どの視線が下の植物にいき、オオタカの巣は葉の茂みの中で隠れて気づかずにいたため、そっとしておきました。近隣の方は朝にはよく鳴き声を聞いているようで巣立ちが楽しみです。



盗掘されることが多く
市内では珍しい
キンラン
ギンラン



予定より30分オーバーしましたが、観察できた植物の確認をすると、花が咲いているものを中心に56種以上になりました。最後に講師から、「落ち葉掻きを継続していかなければ今回観察できた植物が消えてしまうこともある」という指摘があり、貴重種をはじめとしてこの植生の豊かさを今後どのように保全していくか、人と自然の共生が大きく問われていると感じた有意義な1日でした。(運営委員・人間樹林の会：安部)



かなり落ち葉が
積もっていたが
林床で
キンランを発見

調布の自然 昆虫編 コマルハナバチ

木々の緑も深くなり、虫たちの姿もよくみかけるようになりました。この時期、街路樹の下に植えられたツツジに、まるっこいムクムク毛の生えた全体が黒色でおしりだけがオレンジ色のハチが、忙しそうに花の中に頭をつっこんでいるのを見ることがあります。このハチはコマルハナバチ。早春から6月くらいまでみられる働き者のハチです。

最近調布でもブルーベリーを育てている方が増えてきました。この実がなるには別のブルーベリーの株の花粉が必要ですが、それを運んでくれるハチです。おとなしいハチで握りつぶしたりでもしなければ刺すことはありません。大抵、花に夢中ですから、間近でみてもハチの方では人を気にしていないようです。

このコマルハナバチは春から夏に咲く花の花粉を運ぶ、自然界では重要な仕事を担っています。このハチが減ると、せっかく咲いた花も実らず、種子ができないということになる場合もあります。春はハナバチに限らず、アシナガバチもスズメバチも、たたいたり、つかまえたりしなければ人を刺すことはあまりありません。ハチの仲間には、花に実りをもたらしたり、葉を食べる芋虫毛虫を捕ってくれたりする益虫なのです。むやみに怖がったり、殺したりしないで下さいね。(Y.I. かに山の会会員)



石ころむ 3

布田小学校長の寺木秀一先生の連載コラムです。

礫岩 -石ころでできた 石ころ

細かい粒の石の中に別な石が入っているのが固まってできたように見える石があります。礫岩です。多摩川には時々角のある石が入っている礫岩があります。丸い石の入っている円礫岩と区別して角礫岩と呼ばれます。



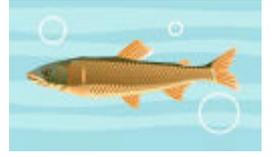
この礫岩はどのようにできたのでしょうか。河原の謎です。

- ・海底崖崩れや地震などにより岩石が崩れ、その破砕物。
- ・火山の噴火などでマグマが地下から噴出する際に、周りにあった岩石を取り込んで上昇してきた。
- ・地層がずれて切れる、そのときこすりあわせるように地層がちぎれ、海底の泥岩の中に取り込まれて地層となる。

これらの岩石の層が地殻変動で地上に現れ、風化浸食によって石ころになって多摩川の河原にある。ということは、多摩川の上流で日本列島が出来るときにいずれかの事件が起きていたこととなります。石ころから地球の歴史が見えてきます。

今回は、奥多摩が海底であったことを物語る「石灰石」です。

大盛況だった 春のあゆまつり」



4月30日多摩川自然観察緑地集合で、調布水辺の楽校設立準備会主催の「あゆまつり」が行われました。多摩川流域の5小学校(布田・富士見・多摩川・杉森・染地)の親子を対象に行い幼児やスタッフを合わせると、400名を越す参加となりました。

川に入る前に、全員がライフジャケットを着け安全講習を受けて川に入りました。例年より水が少なく、また魚道近くが工事中で堰の近くまで来る鮎は少なかったのですが、多少捕まえられ他の魚たちと一緒に皆で堰上にバケツリレーで運びました。

準備会主催では初めてのイベントで多数の参加者があり、多少の混乱はありましたが、子どもたちが「楽しかった!」と言って川から笑顔で上がってきたのを見て、ほっとしました。

夏、秋にもイベントを計画していますので、興味を持たれた方は次回ぜひスタッフとして参加して下さい。詳しくは環境政策課にお問い合わせ下さい。



入っているかな?

カニ山の会

5/12(土) 10:00~12:00
晴れ 参加者 11名+2名

作業始めにマルハナバチを見かけ、メンバーの石森さんから「危険性は少なく、花にとって大事なハチ」との説明を受けた。上部東側を中心に笹刈、シュロ抜き、ツゲの枝下ろしなどをした。北東の端にクサイチゴ(キイチゴの1種)が赤い実をつけていたので、少し味見。雑木林の楽しさを味わった。

作業終了後、案内板の掲示についての案が提示された。皆の意見を取り入れ、次回以降に取り付けを行う。その他、下草に花が少ないのが気になることについて意見交換。「人による踏み込みを避けるために園路をはっきりさせる。又は樹林内に入り込めないようにしてしまう。花が少ないことから昆虫による受粉が少なく、悪循環が起きている

とも考えられる。」などの意見が出た。

帰りがけに都が買い取ったと言われるキャンプ場北側を見学。今後の整備が気になる所。(K)



クサイチゴを食す

環境モニター

5/13(日) 9:30~12:00
晴れ 参加者 14名+4名

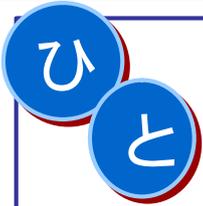
野川の植物観察ということだったが、二枚橋バス停付近、道路側の土手から観察を始めた。幹線道路脇でありながら、市内ではあまり見られないヤマホタルブクロな

どが観察できた。その後野川公園わんぱく広場の端でも沢山の山野草を見ることができた。野川両岸はイネ科やスゲ属も最盛期とあって、かなりの種数を記録。身近な場所でこんなにも色々な植物を観察できたことに満足。次回からは記録係りを決めて記入もれの無いようにしたい。(K)

花盛りのオヘビイチゴ



小澤講師の説明を聞きながらヒロハナヤスリの観察



佐々木たけ子さん



私共は深大寺元町に住んでいます。34年前ここに住み始めた頃は、虎狛神社の森、屋敷林、造園畑、農作物畑に囲まれて、心地よい生活をしておりました。この10年間でその面影は跡形も無くなりました。残っているのは虎狛神社の森だけです。自然大好き人間の私は樹木や草花や野鳥だけでなく地球上に起こるさまざまな自然現象にも興味を持ち行動を起こしました。サザンクロス、オーロラ、沈まない太陽等等、日本では目にする事のできない事象を觀に、世界10カ国余を観光しました。1987年51歳で始まった私の旅はこれからも続きますが、今までの20年間、何のトラブルもなく過せた事に感謝の気持ちで一杯です。特に夫とお天道様に！

旅行をしていると、今世界中で共通の問題になっている地球温暖化の影響ではないかと思う事を肌で感じます。少しでも地球に優しい生活を心掛けるべく我が家では、CO₂の削減・汚染物質の削減・ごみの削減を目的に、太陽光発電、オール電化、純石鹼分99%のEM粉石けん(洗濯台所すべて)を使用、生ゴミは乾燥して庭へ埋める事を実施しています。子育て、親の介護卒業の後、地域とのかかわりを持ちたく、7年位前に市の「環境リーダー講習会」を受講して、今は「カニ山の会」「こどもエコクラブ」に参加させて頂いております。ただ好奇心だけで動いている私はあまり役に立ちそうにもありませんが、元気の続く限りお仲間に入れて頂きたいと思っております。

また、アジサイ・ウラシマソウの葉に大量の青虫が発生し、葉脈だけになっていたの、これからの虫の発生が気がかりです。落ち葉の天地返しと、雑木林広場の笹刈りを30分ほどしましたが、久しぶりに心地良い汗をかきました。来月も下草刈りをする予定です。(安部)

環境政策課の窓



ゴールデンウィークもあっという間に過ぎ、夏が近づいてくるのを日々感じる今日この頃ですが、皆さんはどこかへ出かけられたでしょうか？ 私も先日、こどもエコクラブのサポーターの人たちと一緒に多摩川源流、山梨県小菅村に下見に行ってきました。

マイクロバスに乗って八王子周辺まで走って来ると緑がだんだん深くなっていくのを感じました。山梨県に入る頃には一面新緑にあふれた森の中、緑がとても美しく自然の生命力を全身に感じる事ができました。この時季の緑は本当に美しいですね。皆さんもぜひ、たまには都心から離れて家族で出かけてみてはいかがでしょうか？きっと新しい風がそこにも吹いています。

小菅原始村では多摩川源流体験やマスのつかみ取り等、貴重な自然体験が盛りだくさんです。さて泊まる場所かというと、それは行ってみたいのお楽しみ・・・。本番は8月8日、9日の一泊二日です。

(環境政策課：小松昭博)

ちょうふ環境市民懇談会

・運営会議 5/14(月)

環境部長との意見交換会をおこなった。井上部長から「二枚橋焼却場の代替問題も一区切りついたので、自然環境にも力を入れていく。懇談会の存在についても方向性を示して行きたい」などのお話を伺ったあと、市民との協働について話し合った。

懇談会の役割・深大寺佐須地区の保全・縦割り行政と市民のかかわり方・環境基本計画の進行管理 etc 様々の問題が市民側から提示された。

人間・樹林の会

5月20日、五月晴れの中、はじめにシャガの広場で先月見つけた風倒木、杉2本とシュロが市役所によって幹途中から伐採処理されていることを確認しました。幹周り40cmほどあったため急に日当たりがよくなっています。シャガへの影響が少し心配されます。他にもシュロ5本の伐採を検討し見通しの確保を確認しました。また、1本杉が倒れていたのもう少し間引きが必要か7月に再検討することにしました。



ガズミの花

樹林地内の花は、ハルジオン、ヤブタバコ、ドクダミ、ニガナと意外と種類が少ないことに驚きましたが、1週間前にガズミが咲いていたと報告がありました。

日当たりが良くなった分、シャガへの影響が気がかり

田んぼの学校

5月に入り、13日にはあら起し、畦の補修などを行い、田植えに向けての準備を進めています。さて稲のほうの生育はどうでしょうか。種籾を蒔いた後は雨がちな日が続きました。また都内で雷が降る日もあ

り、稲が育つにはちょっと気温が低いので心配していました。先日種苗業者の作る機械植えの苗を見る機会があったのですが田んぼの苗と生育具合はほぼ同じなので、少し安心。種籾の間隔は5ミリくらいとかなり込み入った「厚蒔き」でした。

それまでの間に畑のお手伝いで草取りをしたり、用水の生き物観察をしたりといろいろな授業を行いました。

四国方面では早くも水不足が心配されていますが、今のところ関東ではその懸念はなさそうです。むしろ野川の水量は結構豊富で、ここ数日のような夏日が続けば、6月10日に予定している田植えには立派な苗に育っていることでしょう。(こんどう)



環境市民 活動カレンダー & おしらせ

全ての会でメンバー随時募集中!

環境モニター

6/10(日) 9:30~12:00

集合場所: 多摩川ワンド近くの「市民広場」

内容: 多摩川ワンドの植物調べ

持ち物: 図鑑・筆記用具等

市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

問合せ: 環境政策課 042-481-7086

カニ山の会

6/9(土) 10:00~12:00

集合場所: 深大寺自然広場、野草園横

内容: 林床整備等

原則毎月第2土曜にかに山東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所へおいで下さい。

会費500円+保険料500円(年間)

問合せ: 環境政策課 042-481-7086

若葉町3丁目第3緑地 - 保全活動

6/10(日) 10:00~12:00

集合場所: 入間地域福祉センター

内容: 保全活動

原則毎月第2日曜に活動しています。

問合せ: 緑と公園課 042-481-7083

入間・樹林の会

6/17(日) 9:30~12:00

集合場所: 入間地域福祉センター

内容: 下草刈等

原則毎月第3日曜に活動しています。

問合せ: 環境政策課 042-481-7086

ちょうふ環境市民懇談会・運営会議

6/11(月) 18:30~20:30

場所: 調布市文化会館たづくり 304 会議室

内容: 環境フェア反省など

この運営会議にはどなたでも参加できます。

資料準備のため、事前に調布市環境政策課にご連絡下さい。(TEL:042-481-7086)

~あなたから始まる、地球の未来~

調布市 環境フェア

6月2日(日) 10:00 ~ 15:00

場所 市役所前広場

日頃、環境保全活動をしている市民グループや、企業が集まって展示広報活動を行います。参加しながら楽しく学べるコーナーもありますので是非ご参加ください。

問合せは 環境政策課 042-481-7086 へ



布田の通称へび山では真っ白なエゴが花盛りだが、下向きに咲く小さな花なので気づく人は少ない。

夕日の当たるへび山。昨年かなりの木の伐採と笹刈りがされたがあっという間に又笹に覆われている。



編集後記

5/23、第16回目になるという深大寺新能を鑑賞した。まだ明るいうちに狂言「蚊相撲」から始まり、能「野守」が鼓の音が響く中のクライマックスに近づくころには、すっかり暗くなり、幽玄の世界に。かがり火がたかれお香の香りが聞こえてきた。折りしも水性植物園に隣接している深大寺城跡の国史跡指定が決まりそうだとニュースが飛び込んできた。歴史保存とともに現在・将来の自然の保全がますます重要になる。

今号もKNさんにほとんどを手つだってもらって、完成。この「だより」が「ちょうふの自然」を楽しむひとが増えるきっかけになると、うれしい。(運営委員: 江刺益子)

「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先: 調布市環境政策課 tel 042-481-7086

E-mail: kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

~調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます~

市公式HP [くらしのガイド](#) 環境 環境学習 自然だより